

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 特 許 公 報 (B2)

(11) 特許番号

特許第5239672号
(P5239672)

(45) 発行日 平成25年7月17日 (2013. 7. 17)

(24) 登録日 平成25年4月12日 (2013. 4. 12)

(51) Int. Cl.

F 1

A 6 1 J 1/14 (2006.01)

A 6 1 J 1/00 3 9 0 R

請求項の数 2 (全 7 頁)

(21) 出願番号 特願2008-237615 (P2008-237615)
 (22) 出願日 平成20年9月17日 (2008. 9. 17)
 (65) 公開番号 特開2010-68899 (P2010-68899A)
 (43) 公開日 平成22年4月2日 (2010. 4. 2)
 審査請求日 平成23年6月16日 (2011. 6. 16)

(73) 特許権者 000002897
 大日本印刷株式会社
 東京都新宿区市谷加賀町一丁目1番1号
 (74) 代理人 100111659
 弁理士 金山 聡
 (74) 代理人 100135954
 弁理士 深町 圭子
 (74) 代理人 100119057
 弁理士 伊藤 英生
 (74) 代理人 100122529
 弁理士 藤枿 裕実
 (74) 代理人 100131369
 弁理士 後藤 直樹

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 薬袋

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項 1】

薬剤を収納させる薬袋部材と、前記薬剤の情報を表示させる薬剤情報表示部材とが、切り取りミシン目を介して切り取り可能に一体化されてなる薬袋であって、
 前記薬袋は重ねられた2枚の矩形状の用紙からなり、前記用紙のうち薬袋部材となる領域は、前記用紙の対向面の四周縁部に設けられた接着剤により接着されて袋状に形成され、かつ、前記用紙の一方に切込みを形成することで開口部が設けられてなり、
 更に、前記用紙のうち薬剤情報表示部材となる領域は、薬剤説明が用紙表面にプリントされる薬剤説明書領域と、薬剤料金が用紙表面にプリントされる薬剤料金明細書領域と、用紙表面が薬剤シールとなる薬剤シール領域とを少なくとも備え、
 前記薬剤説明書領域と前記薬剤料金明細書領域は、対応する領域の重ねられた2枚の用紙が接着剤を介して接着され、
 前記薬剤シール領域は、対応する領域の重ねられた2枚の用紙のうち薬剤シールとなる用紙の裏面に粘着剤が塗られ対向する用紙に対して貼り替え可能に貼付され、
 前記薬剤説明書領域と、前記薬剤料金明細書領域と、前記シール領域とは、切り取りミシン目を介して切り取り可能に形成されていることを特徴とする薬袋。

【請求項 2】

前記シール領域は、重ねられた2枚の用紙の一方の用紙に形成された切込み枠により形成されていることを特徴とする請求項1記載の薬袋。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、2枚の矩形状の用紙が重ねられ、所定部分に接着部と粘着部を設けることで接着一体化され、薬剤を封入する開口部が施された薬袋部材と、該薬袋部に収納する薬剤情報を表示する薬剤情報表示部材と、を有している薬袋に関する。

【背景技術】

【0002】

従来、薬局や病院などにおいて患者が持参した処方箋に基づいて処方した薬剤を出す際に、薬袋などに、薬剤料金明細書、薬剤説明書などをプリント出力するための、表面にプリント面を有する薬袋が既に提案されている。（例えば、特許文献1、2参照）

10

また、最近では、服用している薬剤の履歴を記入する薬剤手帳が普及しており、記入の手間を省くために、薬剤名をプリンタで印字した薬剤シールを用いる薬局もある。

【0003】

しかしながら、患者に渡す薬袋と共に、薬剤料金明細書、薬剤説明書、薬剤シールなど各種のプリント出力媒体を用意する場合には、薬袋と、それらの媒体と、をマッチングさせる際にミスが発生する危険性や、また正確にマッチングさせるために作業時間がかかるなどの問題がある。

特に、大きな規模の病院に近い薬局では、多くの患者が薬局に訪れるために込み合うこともあり、患者の待ち時間をできるだけ短くすると共に、間違いなく処方箋通りの薬剤を用意して提供する必要があり、従来の方法では正確性にも不安があった。

20

【0004】

【特許文献1】特開2000-190984号公報

【特許文献2】特開2006-34523号公報

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【0005】

そこで、本発明は、薬剤を収納させる薬袋と共に、その薬袋に収納させた薬剤に関する薬剤情報をプリント出力して患者に渡したい場合でも、患者に渡す薬袋と共に、薬剤料金明細書、薬剤説明書、薬剤シールなど各種のプリント出力媒体を一体化させて渡せるようにして、マッチングミスの防止を図り、またマッチング作業の省略を図れるようにした薬袋を提供する。

30

【課題を解決するための手段】

【0006】

本発明の薬袋は、薬剤を収納させる薬袋部材と、前記薬剤の情報を表示させる薬剤情報表示部材とが、切り取りミシン目を介して切り取り可能に一体化されてなる薬袋であって、前記薬袋は重ねられた2枚の矩形状の用紙からなり、前記用紙のうち薬袋部材となる領域は、前記用紙の対向面の四周縁部に設けられた接着剤により接着されて袋状に形成され、かつ、前記用紙の一方に切込みを形成することで開口部が設けられてなり、更に、前記用紙のうち薬剤情報表示部材となる領域は、薬剤説明が用紙表面にプリントされる薬剤説明書領域と、薬剤料金が用紙表面にプリントされる薬剤料金明細書領域と、用紙表面が薬剤シールとなる薬剤シール領域とを少なくとも備え、前記薬剤説明書領域と前記薬剤料金明細書領域は、対応する領域の重ねられた2枚の用紙が接着剤を介して接着され、前記薬剤シール領域は、対応する領域の重ねられた2枚の用紙のうち薬剤シールとなる用紙の裏面に粘着剤が塗られ対向する用紙に対して貼り替え可能に貼付され、前記薬剤説明書領域と、前記薬剤料金明細書領域と、前記シール領域とは、切り取りミシン目を介して切り取り可能に形成されていることを特徴とする。

40

【0007】

本発明の薬袋は、前記シール領域は、重ねられた2枚の用紙の一方の用紙に形成された切込み枠により形成されていることを特徴とする。

50

【発明の効果】

【0008】

本発明の薬袋は、2枚の矩形状の用紙が重ねられ、所定部分で接着及び粘着されて、薬剤を封入する開口部が施された薬袋部材と、該薬袋部に収納する薬剤情報を表示する薬剤情報表示部材と、が一体化されて設けられているので、薬剤を収納させる薬袋と共に、その薬袋に収納させた薬剤に関する薬剤情報をプリント出力して患者に渡したい場合でも、患者に渡す薬袋と共に、プリント出力させた薬剤情報を一体化させて渡すことができ、マッチングミスの防止を図ることができ、またマッチング作業の省略を図ることができるという効果がある。

【0009】

また、本発明の薬袋は、重ねられた2枚の用紙の一方の用紙に形成された切込み枠によりシール部分が形成され、また薬剤情報表示部材の接着部分の表面に、前記薬袋部に収納する薬剤情報として、薬剤説明情報と薬剤料金情報とを表示する表示領域が設けられているので、薬剤料金明細書、薬剤説明書、薬剤シールなど各種のプリント出力媒体を一体化させて渡すことができ、マッチングミスの防止を図ることができ、またマッチング作業の省略を図ることができるという効果がある。

【発明を実施するための最良の形態】

【0010】

以下、本発明の実施形態に係る薬袋を図面に基づいて詳細に説明する。

図1は、本発明の実施形態に係る薬袋の斜視図、図2は、図1のA-A線断面図、図3は、図1のB-B線断面図、図4は、図1のC-C線断面図、図5は、本発明の実施形態に係る薬袋を分解させた場合を示す斜視図、図6は、本発明の実施形態に係る薬袋の使用方法を示し、薬剤の封入と、必要なプリント出力を行なった状態を示す斜視図、図7は、本発明の実施形態に係る薬袋の使用方法を示し、薬袋を切り取り、薬剤シールを貼り替えた状態を示す斜視図である。

【0011】

本発明の実施形態に係る薬袋1は、図1に示すように、2枚の矩形状の用紙2, 3が重ねられて、所定部分において接着剤4が塗布された接着部において接着され、また、粘着剤5が塗布された粘着部において剥離可能に粘着されていることで一体化されている。

そして、薬袋1は、切り取り用ミシン目6を介して薬袋部材1aと、薬剤情報表示部材1bと、の部分有しており、まず、薬袋部材1aには、薬剤を封入する開口部7が施され、また、薬剤情報表示部材1bは、該薬袋部に収納する薬剤情報をプリント出力により表示する表示領域を有している。

薬袋部材1aに設けられた開口部7は、重ねられた2枚の用紙の一方の用紙に切込みを形成することで設けられ、薬袋部材1aの表面には、この袋が薬袋であることを示すために「薬袋」などの表示が施されている。

したがって、患者は、薬剤情報を確認した後に、必要に応じて切り取り用ミシン目6から切り離すことで、必要に応じて薬袋部材1aによる薬袋だけを所持することができるように構成されている。

【0012】

次に、薬剤情報表示部材1bは、横方向に所定間隔を空けて2本の切り取り用ミシン目8, 9が形成されており、これらの切り取り用ミシン目8, 9により、上側から順番に、薬剤説明書領域10と、薬剤料金明細書領域11と、薬剤シール領域12と、に区別されている。

そして、薬剤説明書領域10には、処方箋に基づいて処方した薬局などが、この薬袋に収納させる薬剤に関する説明情報をプリント出力する。

また、薬剤料金明細書領域11は、この薬袋に収納させる薬剤に関する料金情報をプリント出力させるための領域である。

更に、薬剤シール領域12は、重ねられた2枚の用紙の一方の用紙を剥離させて、貼り替え可能とする薬剤シール部分12a, 12bを有する。

このシール部分は、重ねられた２枚の用紙の一方の用紙に形成された切込み枠１３ａ，１３ｂにより形成されている。

また、この実施形態では、２つのシール部分１２ａ，１２ｂを設けた場合について説明しているが、必要に応じてシール部分をいくつでも設けることができる。

【００１３】

次に、重ねられた２枚の矩形状の用紙２，３の間に設けられた接着部及び粘着部について、図５に基づいて説明する。

図５には、重ねられた２枚の矩形状の用紙２，３の間における接着部領域４ａと、粘着部領域５ａとの位置関係がわかるように、２枚の矩形状の用紙２，３を分離させた状態の斜視図が示されている。

10

まず、重ねられた２枚の矩形状の用紙２，３の間の接着部領域４ａについて説明する。

接着部領域４ａは、薬袋１の薬袋部材１ａと薬剤情報表示部材１ｂとにそれぞれ設けられている。

まず、切り取り用ミシン目６から左側にある薬袋部材１ａにおいては、用紙３上の四周縁部に接着剤４が設けられており、この接着剤４により２枚の矩形状の用紙２，３が接着されることで、四周が密封された袋が形成されている。

【００１４】

次に、切り取り用ミシン目６から右側にある薬剤情報表示部材１ｂにおいて、上側に位置する矩形状の用紙２の薬剤説明書領域１０及び薬剤料金明細書領域１１に該当する領域が接着剤４による接着領域となる。

20

【００１５】

次に、粘着部領域５ａは、切り取り用ミシン目６から右側にある薬剤情報表示部材１ｂにおいて、上側に位置する矩形状の用紙２の薬剤シール領域１２に該当する領域が粘着部領域５ａとなる。

そして、粘着部領域５ａに該当する用紙２の裏面側には、粘着剤５が塗布されている。

また、２つのシール部分１２ａ，１２ｂを用紙３から剥離可能とするために、２つのシール部分１２ａ，１２ｂに該当する用紙３の上面側に剥離剤層を設けておくことが好ましい。

なお、２つの薬剤シール部分１２ａ，１２ｂが、用紙３の上面側から剥離可能であれば、必ずしも剥離剤層を設ける必要はない。

30

【００１６】

次に、図６及び図７に基づいて、本発明の実施形態に係る薬袋１の使用方法について説明する。

まず、患者から提出された処方箋により薬剤を処方する薬局は、薬袋１をプリンタにセットして薬剤情報表示部材１ｂの表面に対して、薬剤説明書領域１０、薬剤料金明細書領域１１、薬剤シール領域１２、の各領域に必要な薬剤情報をプリント出力する。

また、薬剤シール領域１２の薬剤シール部分１２ａ，１２ｂの表面には、収納されている薬剤の名称や服用する時間や条件などをプリント出力させておくことで、患者が何時、どの薬剤を服用すればよいのかがわかるようにしてある。

【００１７】

40

次に、薬袋１の薬袋部材１ａの開口部７から、処方する薬剤１５を入れて収納させて、薬剤１５を患者に渡す。

図７に示すように、患者は、薬袋１を受け取った後に、薬剤シール部分１２ａ，１２ｂを剥離させて、薬袋部材１ａの所定部分に貼付させる。

そして、切り取り用ミシン目６から薬袋部材１ａと薬剤情報表示部材１ｂとを切り離す。

これにより、患者は、薬剤シール部分１２ａ，１２ｂが貼付された薬袋部材１ａを所持して、必要に応じて薬剤を服用する。

【００１８】

上記のように、本発明の実施形態に係る薬袋１は、薬剤を封入する開口部が施された薬

50

袋部材と、該薬袋部に収納する薬剤情報を表示する薬剤情報表示部材と、が一体化されて設けられているので、薬剤を収納させる薬袋と共に、その薬袋に収納させた薬剤に関する薬剤情報をプリント出力して患者に渡したい場合でも、患者に渡す薬袋と共に、プリント出力させた薬剤情報を一体化させて渡すことができ、マッチングミスの防止を図ることができる。

【図面の簡単な説明】

【0019】

【図1】本発明の実施形態に係る薬袋の斜視図である。

【図2】図1のA - A線断面図である。

【図3】図1のB - B線断面図である。

10

【図4】図1のC - C線断面図である。

【図5】本発明の実施形態に係る薬袋を分解させた場合を示す斜視図である。

【図6】本発明の実施形態に係る薬袋の使用法を示し、薬剤の封入と、必要なプリント出力を行なった状態を示す斜視図である。

【図7】本発明の実施形態に係る薬袋の使用法を示し、薬袋を切り取り、薬剤シールを貼り替えた状態を示す斜視図である。

【符号の説明】

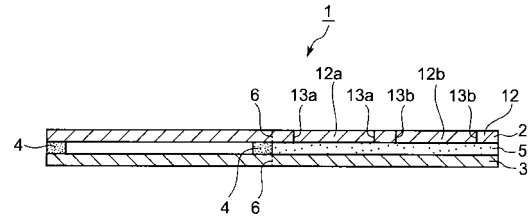
【0020】

- 1 薬袋
- 1 a 薬袋部材
- 1 b 薬剤情報表示部材
- 2 , 3 矩形状の用紙
- 4 a 接着部領域
- 4 接着剤
- 5 a 粘着部領域
- 5 粘着剤
- 6 , 8 , 9 切り取り用ミシン目
- 7 開口部
- 10 薬剤説明書領域
- 11 薬剤料金明細書領域
- 12 薬剤シール領域
- 12 a , 12 b 薬剤シール部分
- 13 a , 13 b 切込み枠
- 15 薬剤

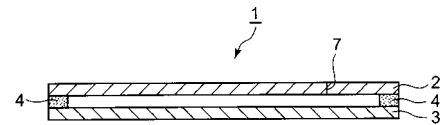
20

30

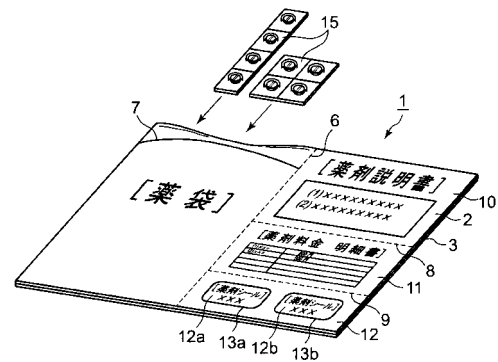
【 図 3 】



【 図 2 】



【 図 6 】



フロントページの続き

(72)発明者 宮内 俊輔

東京都新宿区市谷加賀町一丁目1番1号 大日本印刷株式会社内

審査官 佐々木 一浩

(56)参考文献 特開2004-059108(JP,A)

特開2000-219246(JP,A)

(58)調査した分野(Int.Cl., DB名)

A61J 1/14